



©Yuki Asada

森のナッツが大変身!

「わー!!」

土曜日の朝、町の子どもたちが元気いっぱい集まってきた。イベントでも始まるのかと思いきや、みんな座って何やら作業を始めた。手元にはカラフルなビーズ、刺しゅう糸が並べられている。「これでプレスレットを作るの!」。女の子がそう教えてくれた。

フィリピンの首都マニラから約300キロ、ルソン島の南東部にある町ダエトは、スーパーもコンビニもあってにぎやか。しかしその裏側にあるのは厳しい現実。貧しい家庭も多く、物乞いをしながら生活している子もいる。

彼らが明日に希望を感じて前に進んでいけるように。そんな思いで、この

地域で活動する青年海外協力隊員が立ち上げたのが「PILIKIDS」。月2回、土曜日にみんなで集まってものづくりに取り組んでいる。

“PILI”は地元で採れる“ピリナッツ”のこと。これまで捨てられていたピリナッツの殻を使った雑貨作りが主な活動だ。「来る者拒まず、去る者追わず。みんなで自由に好きな物を作る場です」と飯塚菜摘隊員。最初は悪戦苦闘していた子も、最近では「ほら、きれいにできたでしょ」と自慢げに見せてくれるように。自信と達成感で表情もどんどん明るくなってきた。

フィリピンの子どもたちの自信作、ぜひ生活のワンポイントに加えてみては。



みんなで協力して取り組むことで、地域の子どもたちにも仲間意識が生まれてきた

★フィリピンの雑貨を10人にプレゼント!→詳細は38ページへ

